

サンプル

特定企業調査報告書

(鹿島建設株式会社編 サマリー)

株式会社AIRI

1. 会社概要

■鹿島建設株式会社の概要

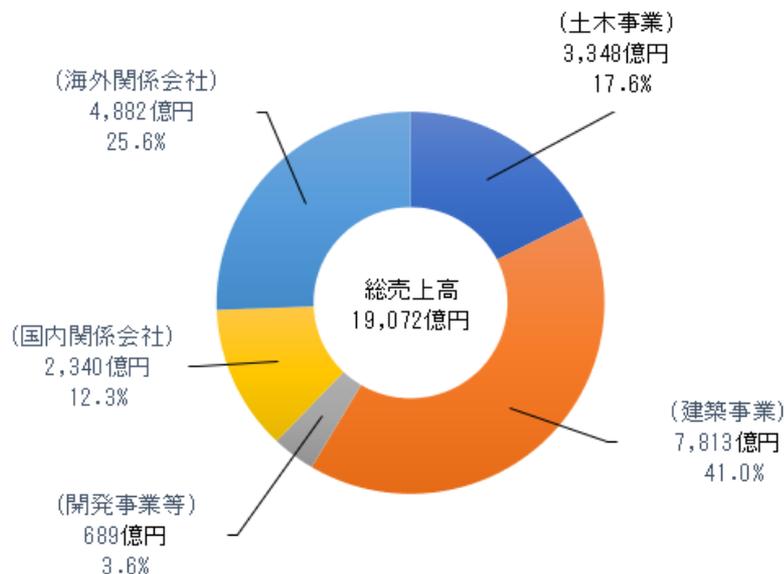
本社所在地	東京都港区元赤坂1-3-1
設立年月日	1930年3月(創業:1840年)
年間売上高	1,907,176百万円(2021年3月期;連結)
従業員数	18,905名(2021年3月末現在;連結)

■鹿島建設株式会社の業績推移(単位:億円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
総売上高	18,218	18,306	19,743	20,108	19,072
経常利益	1,634	1,797	1,629	1,466	1,397
当期純利益*	1,049	1,268	1,098	1,032	985

*:親会社株主に帰属する当期純利益

■鹿島建設グループの事業別の業績(対外部顧客)



2. 事業概要

鹿島建設株式会社の各事業分野の主な事業内容は以下のとおりです。

(1) 土木事業

鹿島建設株式会社が、建設事業のうち土木工事の受注施工等を行っています。

(2) 建築事業

鹿島建設株式会社が、建設事業のうち建築工事の受注施工等を行っています。

(3) 開発事業等

鹿島建設株式会社が、不動産開発全般に関する事業及び意匠・構造設計、その他設計、エンジニアリング全般の事業を行っています。

(4) 国内関係会社

鹿島建設株式会社の国内関係会社が、主に日本国内において行っている事業であり、建設資機材の販売、建設用機械の納入、専門工事の請負、総合リース業、建物総合管理業、ビル賃貸事業、ホテル経営及びゴルフ場の経営を行っています。

(5) 海外関係会社

鹿島建設株式会社の海外関係会社が、海外地域において行っている事業であり、米国を中心とする北米、欧州及びアジアで建設事業、開発事業等を行っています。

3. 研究開発情報

鹿島建設グループは、多様化する社会及び顧客のニーズに対応し、受注や生産への貢献を目的に、建設事業の生産性及び品質向上のための技術開発を進めています。さらに、近年のIoTやAIの急速な技術革新がもたらす建設業のビジネスモデルの転換や、国連が採択したSDGsの実現、地球環境改善等の社会課題解決に資する研究開発を中長期的な課題として取り組んでおり、大学、公共機関や他企業との共同研究も推進しながら、効率的に実施しています。

鹿島技術研究所の組織を以下に示します。



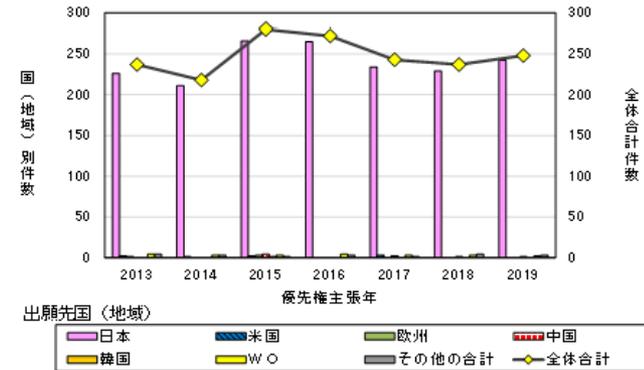
4. 知財情報

鹿島建設株式会社の知財指標は以下のとおりです。

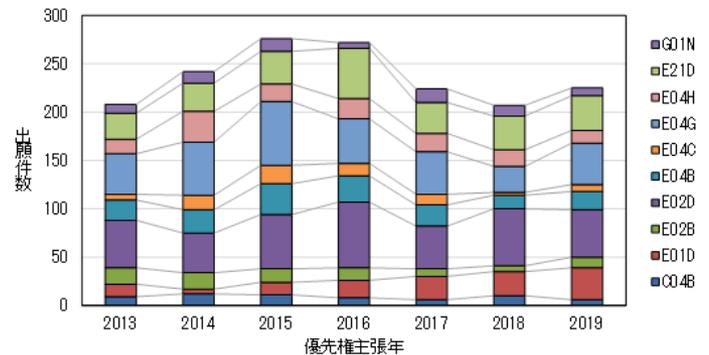
優先権主張年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
出願件数	272	243	237	248	31
開発費(百万円)	8,200	10,300	13,900	16,400	15,000
開発費(百万円)/出願	30.1	42.4	58.6	66.1	—

5. 各国・地域、IPCサブクラス別の特許出願動向

鹿島建設株式会社の各国(地域)への特許出願件数は以下のとおりです。



鹿島建設が出願した特許のIPCサブクラス上位10種の出願件数推移は以下のとおりです。

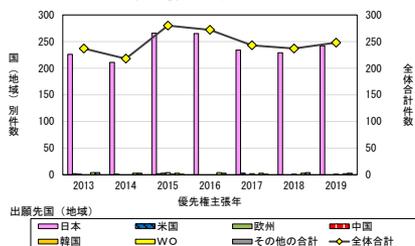


6. 競合企業の分析

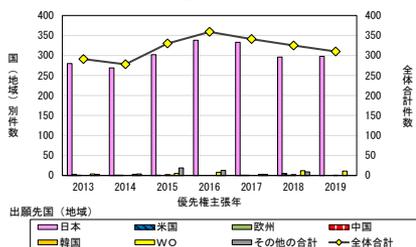
鹿島建設及び競合他社4者について、日本、米国、欧州、中国、韓国、WO、及びその他を出願先国(地域)として、2013年から2019年までの各年の特許出願件数を調査した結果は以下のとおりです。

注)「その他の合計」とは、日本、米国、欧州、中国、韓国及びWO以外の国(地域)への出願件数の合計

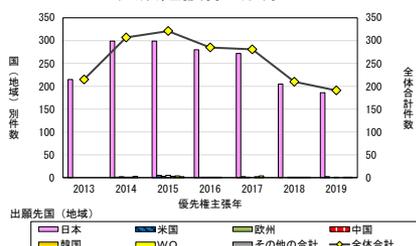
鹿島建設株式会社



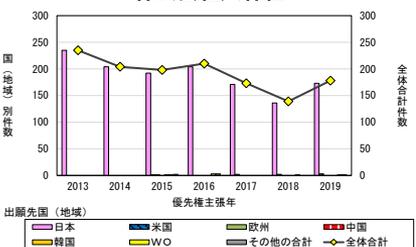
清水建設株式会社



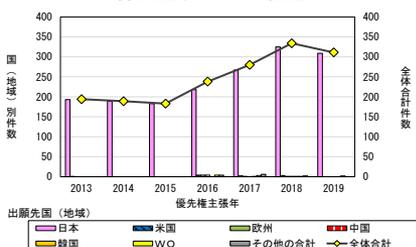
大成建設株式会社



株式会社大林組



株式会社竹中工務店



7. 注目特許

注目記事「CSG施工を合理化／鹿島／作業時間5分の1に」に関連する特許。

出願番号	特願 2018-039077
出願日	2018/3/5
公開番号	特開 2019-152053
公開日	2019/9/12
特許番号	特許 6921771
登録日	2021/7/30
優先日	-
発明の名称	揚重装置、及びその揚重装置を用いたコンクリート構造物の構築方法
発明者	林 健二, 近藤 正芳, 神戸 陸幸, 萩原 康之
出願人	鹿島建設株式会社
国際特許分類 (IPC)	E02B7/00 B66C19/00
特許出願の技術概要	<p>【課題】従来の揚重装置では、型枠を上昇させるのにクレーンが用いられる。クレーンは型枠内側の作業エリアに設置されるため、コンクリート打設作業に支障がある。また、型枠を上昇させる作業の効率化のために、作業範囲の大きなクレーンを設置すると揚重装置が大掛かりになる。本発明の目的は、簡易な構造で作業性に優れた揚重装置を提供することである。</p> <p>【解決手段】コンクリート構造物を構築する際に階段状の段部を利用して用いられる揚重装置 100 であって、階段状の側面のうち第 1 段部の平坦部に立設する第 1 支柱 21 と、第 1 段部よりも上の第 2 段部の平坦部に立設する第 2 支柱 22 と、第 1 支柱 21 と第 2 支柱 22 とに渡って支持され、第 2 支柱 22 の外側に張り出すレール部材 30 と、レール部材 30 に沿って移動可能なトロリ 40 と、トロリ 40 の移動に伴って移動し、荷 10 を吊り上げ可能な巻上装置 50 と、を備える。本発明に用いられる止水板は、ロール状に巻かれた状態で支持枠に支持されている。</p>
代表図面	
パテントファミリー	なし
審査経過情報	特許登録
訴訟	見出せない

